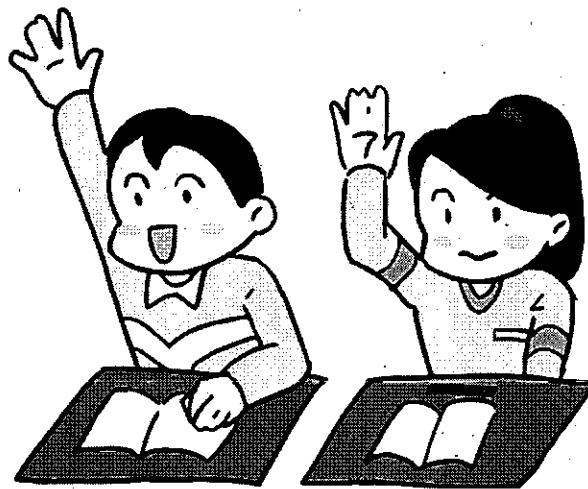


水俣市教育委員会点検・評価報告書

(平成30年度実績)



令和元年12月

水俣市教育委員会

## 目次

教育委員会の点検・評価について	1
教育委員の活動状況	2
点検・評価の結果について	
安全・安心な学校施設の整備・充実	4
学力向上対策事業	6
いじめ、虐待、不登校児童対策事業	8
環境教育の推進	10
給食センターにおける食育・地産地消推進事業	12
人権教育推進事業	14
文化会館自主文化事業	16
図書館創作活動事業	18
公民館自主事業	20
生涯スポーツ活動及び競技スポーツ活動の推進	22

## 教育委員会の点検・評価について

### 1 はじめに

水俣市教育委員会では、教育行政を効果的に推進していくこと、また市民への説明責任を果たすことを目的として、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行い、その結果の報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することとしています。

この報告書は、これに基づいて点検・評価を行ったものです。

### 2 点検・評価の対象

点検・評価は、水俣市教育委員会の権限に属する事務のうち、次に掲げるものを対象としています。

- (1) 水俣市総合計画に掲載された事業
- (2) 教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業

### 3 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項の規定による有識者の知見の活用については、教育委員会事務局が行った点検・評価（自己評価）の結果について、点検評価委員2名から意見聴取（外部評価）をしています。

## 教育委員の活動状況について

### 1 教育委員会の会議の開催状況

教育委員会の会議は、毎月1回の定例会を開催し、必要に応じて臨時会を開催しています。  
平成30年度の開催状況は次のとおりです。

- (1) 教育委員会定例会 12回
- (2) 教育委員会臨時会 6回

### 2 審議等の件数

#### (1) 審議事項 57件

審議内容	件数
規則、訓令等の制定又は改廃に関する事	12
職員及び付属機関の委員の任免、その他の人事に関する事	11
議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関する事	0
その他	34

※その他…教科書採択、奨学生の決定、後援の承認など

#### (2) 協議事項 28件

学校教育努力目標、次回の会議の開催日時など

#### (3) 報告事項 38件

市議会報告、学校教育活動に関する月例報告、催し物の結果報告など

### 3 水俣市教育委員名簿

平成31年3月31日現在

職名	氏名
委員 (教育長職務代理者)	平尾 雅述
委員	堀 浄信
委員	山田 誠次
委員	本田 恵津子

#### 4 点検・評価の流れ

	流れ	実施者	実施時期	実施内容
①	事業選定	担当各課	4月～5月上旬	点検及び評価の対象事業を選定
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">事業実施</div>				
②	自己評価	担当各課	3月下旬	選定事業について、実施状況評価表を作成
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">次年度</div>				
③	外部評価	点検評価委員	8月中	実施状況評価表について点検評価委員の意見聴取
④	最終評価	教育委員	9月～10月	点検評価委員の意見を付した実施状況評価表について、総評という形で教育委員より意見を聴取
⑤	とりまとめ	事務局	11月	点検及び評価の結果をとりまとめ、報告書を作成
⑥	提出・公表	教育長	12月	報告書を議会に提出し、HPで公表

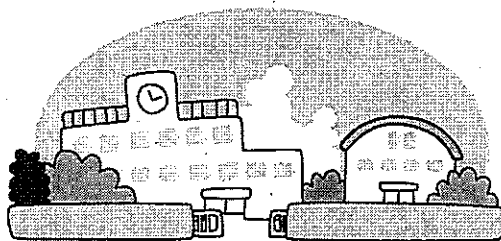
#### ※点検評価委員

- ・教育に関し学識を有する者
- ・任期は3年
- (委員) 森山 祐一・前嶋 正人

#### ○地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。



政策事業名	01	安全・安心な学校施設の整備・充実
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業 ②教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1 【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	<p>学校施設は、多くの児童生徒等が一日の大半を過ごす場であり、また非常災害時には地域住民を受け入れ、避難生活の拠り所として重要な役割を果たす施設であるため、児童生徒をはじめ、そこに集まる人たちが安心・安全かつ快適に過ごすことができるように学校施設の環境改善（構造体・非構造部材の耐震化、トイレ改修、空調設備設置等）に取り組む。</p>
事業の目的・目標	<p>耐震化については、平成21年度より小中学校施設の耐震化を進めており、平成24年度までに構造体の耐震化、平成27年度までに体育館天井材（非構造部材）の耐震化を完了した。しかし、校舎の内外壁、照明器具といった非構造部材については、耐震対策が万全ではなく、今後も平成25年度に策定した「非構造部材耐震化計画」に基づき、学校施設の安全対策を進めていく。</p> <p>また、トイレ改修については、耐震改修時に改修を行った二小、一中以外は未改修の状態であり、怪我や障がいを抱えた児童・生徒等が利用しやすいよう順次改修を進めていく。</p> <p>また、空調設備設置については、近年の外気温の上昇に伴い、教室内の気温上昇が著しいため、児童生徒の体調管理の面及び学習環境整備の面から早期の設置を目指し取り組む。</p>

2 【投入経費】

(千円)

年 度	前年度	H30年度	備考
事業費	78,109	80,211	
財源内訳	国庫支出金	25,409	21,478
	県支出金		
	地方債	50,593	58,600
	その他	2,107	115
	一般財源		18

3 【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績(回数等)
【袋中学校】 特別教室棟外壁改修	<p>【事業期間】 平成30年5月28日～平成30年11月15日</p> <p>【事業実績】 工事監理業務委託料 2,700,000円 工事請負費 33,674,430円</p>
【湯出小学校及び久木野小学校】 トイレ改修	<p>【事業期間】 平成30年6月13日～平成30年9月28日</p> <p>【事業実績】 工事監理業務委託料 1,382,400円 工事請負費 30,136,320円 うち 湯出小学校 17,247,600円 うち 久木野小学校 12,888,720円</p>
【全小中学校】 空調設備整備	<p>【事業期間】 平成30年10月31日～平成31年3月22日</p> <p>【事業実績】 設計業務委託料 12,317,400円</p>

4 【事業の成果】

<p>事業の達成度と、その理由</p> <p>【耐震化】袋中学校において、特別教室棟の外壁改修工事が完了し、生徒が安心して過ごすことができる環境を整備することができた。</p> <p>【トイレ改修】湯出小学校及び久木野小学校において、トイレ改修工事が完了し、衛生環境が改善され、怪我や障がいを抱えた児童等が利用しやすい環境を整備することができた。</p> <p>【空調設備設置】全小中学校において、設計業務が完了し、来年度の工事に向けた準備が完了した。</p>	
<p>(自己評価)</p> <p>A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの</p> <p>B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの</p> <p>C 早急の見直しが必要なもの</p> <p>D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの</p>	<p>自己評価</p> <p style="font-size: 2em;">A</p>

5 【事業の課題・今後の方向性】

<p>(1) 課題</p> <p>市の財政状況が厳しいため、財源となる国の交付金の採択状況によって、事業の進捗に遅れが生じてしまうことが課題であるが、学校施設の特異性（地域住民の応急避難場所としての機能等）を念頭に、常に財政課と協議しながら、事業の前倒しを提案していく。</p>					
(2) 今後の方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>方向性としては維持とし、今後も国の交付金等を活用しながら、計画的に学校施設の環境改善に努めていく。</p>					

6 【点検評価委員の意見】（外部評価）

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>学校は児童生徒の生活の場であり、安全・安心でなければならない。事業の進捗に遅れが出ないように努めつつ、事業への順位性など、児童・生徒及び保護者、教職員等の意見を取り入れるなどの柔軟さも必要と考える。全ての小・中学校の空調設備設計は順調と思える。施設のバリアフリー化や劣化対応等の課題についても早目に計画し、国庫支出金等を得るべく努力をお願いしたい。</p>					

7 【総評】（教育委員会の最終評価）

<p>子どもたちが長時間を過ごす学校の安全対策は重要な事案なので、今後も長期的に捉えて必要な事業を進めていってほしい。設備の修繕をする際も、ただ修繕するのではなく、バリアフリーや、LGBTなど人権に配慮した点検、改修を計画的に実施してほしい。</p>
---

政策事業名	02	学力向上対策事業
種別	①水保市総合計画に掲載された事業 2教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	水保市の児童生徒の学力向上は、保護者も市民も指導する教師も願うところである。水保市学校教育3つの努力目標を「学びの心をもつ子ども、育ての心をもつ教師、はずむ心のある学校」と設定し、その実現に向けて、各学校では、学校や地域の実態に即して教育目標を定め、適切な教育計画のもと、具体的な実践をとおして、教育目標達成の実現に努めている。児童生徒の学力向上に向けて、教師の資質向上や授業力向上、地域とともにある学校運営をめざし、多角的に目的・目標に迫るよう事業を推進する。
事業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上宣言について、平成30年度からの新学習指導要領に沿った内容で見直しを図る。</li> <li>・全国学力・学習状況調査及び熊本県学力調査を起点とした改善検証サイクルに基づき、具体的な実践とその評価を実施し、児童生徒の学力向上を図る。</li> <li>・熊本県学力調査で、各学年の児童生徒の学力が県平均以上となるように、教師の授業力向上を図る。</li> </ul>

2【投入経費】

(千円)

年 度	前年度	H30年度	備考
事業費	2,944	2,195	
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	2,944	2,195

3【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績(回数等)
学校教育改革プロジェクト授業力向上委員会において、児童生徒の学力を向上させるために授業力を向上させる施策を検討する。	学校教育改革プロジェクト会議を6回開催し、全国学力・学習状況調査の分析及び課題の洗い出しを行い、改善に向けた取組の視点の提案及びみなまた教育フォーラムにおける提案授業の指導案検討等を行った。また、学力向上宣言の見直しを図り、未来の担い手育成(学力向上)宣言を作成した。
教職員の資質指導力を向上させるための水保市教育セミナーを年2回、学力向上の成果を公開するみなまた教育フォーラム(2月)を年1回開催する。	本市の教育課題等を考慮し、教育セミナーを2回実施した。〈テーマ:教育に思う(教育長講話)、不登校児童生徒を取り巻く環境と対応の実態について~事例を通してケースの見立てを学ぶ~(SSW講話)〉 水保第一小学校を会場に、第14回みなまた教育フォーラムを実施し、学校改革プロジェクト各委員会による実践報告及び、授業力向上委員会による公開授業を行った。
学力向上研究推進校、図書館活用教育研究推進校、小中一貫教育推進校、学力向上推進事業実践校を指定し、研究推進と研究成果の発信を行う。	小中一貫教育推進校(袋小学校・袋中学校)の2年目として、10月に研究発表会を開催し、研究成果を市内外の学校及び幼稚園・保育園・認定こども園等へ発信した。また、学力向上推進事業実践校において、取組及び成果等を学力向上成果発表会として、保護者及び地域住民に情報発信を行った。
全ての小中学校において、放課後補充教室(週1時間程度)による個に応じた指導を実施する。	全ての小中学校において、放課後補充教室を開催した。(予算の関係で今年度は9月開始となったため、各学校20回程度実施)



#### 4 【事業の成果】

##### 事業の達成度と、その理由

- ・県学力調査における各教科の領域や観点の項目で県平均を上回ったものは、小学校35.9%、中学校61.1%であった。学年ごとの経年変化による比較では、伸びが見られた学年が多かったものの、教科間や学年間に定着率の差がある。
- ・教育セミナーでは、教育長の経験に学ぶ機会の提供や喫緊の教育課題に係る内容を提供し、協議や演習をとおして、資質・技能の向上を図った。参加者の満足度は高かった。
- ・学校教育改革プロジェクト会議は、みなまた教育フォーラムに向け、計画にそって進めることができた。
- ・みなまた教育フォーラムでは、公開授業やグループ協議をとおして、資質及び指導力向上につなげることができた。

##### (自己評価)

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの
- C 早急の見直しが必要なもの
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの

自己評価

B

#### 5 【事業の課題・今後の方向性】

##### (1) 課題

- ・県学力調査結果における教科間差や学年差を解消するための方策をさらに検討する必要がある。
- ・未来の担い手育成（学力向上）宣言にそった実践等を取りまとめ、共有することで市全体としての学力向上を図る必要がある。
- ・若手の教職員が増加に伴い、資質及び指導技能を高める研修を行う必要がある。

##### (2) 今後の方向性

維持

改善

見直し

休止

終了

- ・授業力向上委員会を中心に、未来の担い手育成（学力向上）宣言にそった実践等の取りまとめを行い、みなまた教育フォーラム等を利用して情報発信を行う。
- ・みなまた教育フォーラム、教育セミナーの内容等を見直し、教育課題への対応を図るための体制整備を行う。
- ・学力向上研究推進校及び学校図書館活用教育研究推進校の研究発表をとおして、その成果を発信する。

#### 6 【点検評価委員の意見】（外部評価）

点検評価委員

維持

改善

見直し

休止

終了

具体的な取組で、幅広くやっていることは理解できるが、各学校のカラーが薄いように感じるので、学校の独自性を尊重し見守るなどの援助をしてほしい。県学力調査で小学校35.9%、中学校61.1%が上回ったのは立派である。国語や英語は地方のハンディキャップが大きいと思うが、それをのりこえるためにも市の一般財源で予算をもっとつけてほしい。

#### 7 【総評】（教育委員会の最終評価）

何をもって学力とするかがきちんと整理されないままのように感じる。学ぶ力と捉えるなら、もっと心理面での研究や、配慮、関わりが必要だと感じる。教師の授業力においては個人差があり、教師自身がしっかりと自分の課題として捉える必要がある。推進校の指定を受け資質向上を図ってほしい。全体的には焦点を絞り込んだ取り組みを行ってはどうだろうか。放課後補充教室の更なる充実を望む。

政策事業名	03	いじめ、虐待、不登校児童対策事業
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業 2 教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1 【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	いじめ、不登校等を中心とした本市の児童生徒の自立を支援することは、重要な課題の一つである。平成27年度から、関係機関とのネットワークである自立支援事業連絡協議会の編成を、従前の不登校対策・いじめ防止・虐待防止の3つの部会に戻し、ネットワークの構築を図っている。同協議会3部会の活性化と情報共有、ネットワークの強化を図り、その取組を各学校及び保護者等へ広く発信していく必要がある。
事業の目的・目標	不登校、いじめ、虐待の問題を抱える本市の児童生徒の自立を支援するため、関係機関との連携を強化しながら課題解決に努める。そのために、子ども自立支援室を中心とした取組を段階的に発展させ、関係機関のネットワークの構築を図りながら取組を進める。

2 【投入経費】

(千円)

年 度	前年度	H30年度	備考
事業費	2,701	2,715	
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	2,701	2,715

3 【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績 (回数等)
水俣市自立支援事業連絡協議会を実施する。(構成員の見直し、具体的な目標提示)	全体会を6月と2月の2回、各部会を必要に応じて1～3回実施することで、本市の不登校、いじめ、虐待の状況の把握と未然防止や早期発見・早期解決の取組について情報共有し、対策について検討した。
各中学校ブロックいじめ対策委員会を年3回程度実施する。	各中学校ブロックにおいて、いじめ対策委員会を年3回実施した。
各学校におけるいじめ・不登校の未然防止及び早期解決のはたらきかけを行う。	8月に市内全小中学校の児童会生徒会が参加し、水俣高校の参加協力を得て、合同リーダー研修会を実施した。各校で児童生徒が中心となっていじめの起きにくい学校づくりに取り組むため、高校生の指導のもと、アクションプランの策定を行った。
子ども自立支援室や関係機関と連携しいじめ・不登校・虐待対策等の支援を行う。	子ども自立支援室において、不登校・不登校傾向の児童生徒を継続的に支援した。必要に応じて各学校の不登校対策のケース会議に市教育相談員SSWを派遣し、指導助言等の支援を行った。

#### 4 【事業の成果】

<p>事業の達成度と、その理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校及び不登校傾向児童生徒数は昨年度を下回ることができた。しかしながら、平均欠席日数は増加した。</li> <li>・いじめ調査結果については、「いじめられたと回答した人数」が昨年度より増加した。学校の積極的認知が進んだためと考えられる。</li> <li>・自立支援事業連絡協議会は、各部会にミッションを設定し、リーダーを配置したことで活性化した。</li> <li>・児童会生徒会リーダー研修会は、全ての小中学校が参加し、児童生徒が中心となり、いじめの未然防止に向け、アクションプランの策定等に取り組むことができた。</li> </ul>	
<p>(自己評価)</p> <p>A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの</p> <p>B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの</p> <p>C 早急の見直しが必要なもの</p> <p>D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの</p>	<p>自己評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>

#### 5 【事業の課題・今後の方向性】

<p>(1) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援事業連絡協議会では、昨年度に引き続き不登校対策部会に小児科医を招聘したが、業務の都合で出席ができなかった。指導助言を得る方策や招聘方法を再度検討する必要がある。</li> <li>・不登校及び不登校傾向児童生徒数は減少したが、病気等の理由で長期欠席する児童生徒数が増加した。病気等の理由で長期欠席する児童生徒への対応を継続するとともに、減少に向けた方策が必要である。</li> </ul>					
(2) 今後の方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校対策部会の小児科医の招聘については、市総合医療センターと連携する等の方策を講じる。</li> <li>・本年度は2人のスクールソーシャルワーカー（SSW）を配置したが、派遣依頼が多く、依頼に応えられなかったケースがあった。次年度はさらに1人増員して、増加傾向にある派遣依頼に対応できるようにしていく。</li> </ul>					

#### 6 【点検評価委員の意見】（外部評価）

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>いじめ、不登校、虐待の問題を抱える児童生徒の自立を支援するのみならず、保護者や教職員がどう対応したらいいのか、また情報を共有できるような有効な研修の場を定期的につけてほしい。学校（先生）が事実を捕え、情報を共有し、協力体制を整える必要がある。危機管理の観点でいえば、校長の権限を拡大したい。</p>					

#### 7 【総評】（教育委員会の最終評価）

<p>いじめ、不登校と比べ、虐待防止に関しては学校の占める割合は低い感じがする。3つをまとめて対策する意味はあるのか、学校以外の専門的に取り組む機関、組織が必要な段階に来ているのではないかと思う。長期欠席児童については、学校の対応だけではなく、市、学校、医療が一丸となって取り組むことが必要ではないかと思う。中学校ブロックを中心に協議を行うと現状の把握や何が必要なのかが見えてくるのではないか。</p>
---

政策事業名	04	環境教育の推進
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業 2 教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1 【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	各学校における水俣病を教訓とした環境学習、学校版環境ISO（水俣市版）の取組の充実を図る。 子どもの成長段階に応じて体系的な環境学習を実施できるよう、指導の具体例等を示した環境学習資料集の改訂を行う。
事業の目的・目標	子どもたちが、将来、社会で生きていくために必要な「豊かな心」・「確かな学力」・「健やかな体」を取得できる学校づくりを推進するため、自然や郷土を愛し、環境への関心を高め、主体的に学ぼうとする意欲と自分の行動に責任をもつことのできる心豊かでたくましい児童・生徒の育成を図る。

2 【投入経費】

(千円)

年 度	前年度	H30年度	備考
事業費	0	1,220	
財源内訳	国庫支出金	976	
	県支出金	121	
	地方債		
	その他		
	一般財源		123

3 【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績（回数等）
(1) 環境学習資料集の改訂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと学習資料作成委員会での研究協議・改訂（6回）</li> <li>・公開授業の実施（2回：水俣第一小学校、水俣第一中学校）</li> <li>・第14回みなまた教育フォーラムにおける取組発表</li> <li>・県内小中学校、関係教育機関等に送付（約840箇所）</li> </ul>
(2) 学校版環境ISO認定審査の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内すべての小中学校が水俣市学校版環境ISOに取り組み、認定を受けた。</li> <li>・熊本県教育委員会のホームページに、県内小中学校が取り組む学校版環境ISOの好事例として、久木野小学校の取組が紹介された。</li> </ul>
(3) 環境省・水俣市共催による「水銀に関する水俣条約」関連事業等への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境省・水俣市共催による「水銀に関する水俣条約」関連事業として、市内中学生4名が、水銀の吸着除去技術を有する事業者（味の素ファインテクノ株、神奈川県横浜市）を視察し、水俣条約締約国会議第二回（COP2）で発表した。</li> </ul>

#### 4【事業の成果】

##### 事業の達成度と、その理由

ふるさと学習資料作成委員会での研究協議や公開授業を重ね、『水俣市ふるさと学習資料』を改訂し、県内小中学校や関係教育機関等に送付するとともに、みなまた教育フォーラムや新聞報道等を通じて周知することができた。

このことにより、今後、『水俣市ふるさと学習資料』の活用が図られ、自然や郷土を愛し、環境への関心を高め、主体的に学ぼうとする意欲と自分の行動に責任をもつことのできる心豊かでたくましい児童・生徒の育成を図ることに繋げることができた。

##### (自己評価)

- A. かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの
- B. 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの
- C. 早急の見直しが必要なもの
- D. 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの

自己評価

B

#### 5【事業の課題・今後の方向性】

##### (1) 課題

・「水俣市役所環境ISO」の取組は、第6次水俣市総合計画の評価管理ツールとして「行政評価制度」が導入されたことに伴い、事業管理システムの重複を避けるため、平成30年度をもって運用管理を停止されることとなった。平成12年からスタートした学校版環境ISOの取組については、環境に優しい行動をする生活習慣を育成する取組みとして、小中学校に定着し、高い水準で継続して実施できているものの、取組に対する学校担当者の負担も大きく、熊本県学校版環境ISOの取組とも重複している部分がある。

・各校における環境学習の実施については、昨年度改訂した『ふるさと学習資料集』の活用を進めるとともに、水銀に関する水俣条約に向けた取組等の新たな社会情勢を踏まえ、これまで実践してきた環境学習内容を改めて整理・検証する必要がある。

##### (2) 今後の方向性

維持

改善

見直し

休止

終了

・学校版環境ISOは、継続の可否や方法等について、関係課や関係機関と協議し、見直しを行う。  
 ・各校における環境学習の実施については、『水俣市ふるさと学習資料集』の周知啓発を図り、活用を進めていく。また、平成26年3月31日に発行された環境教育副読本『心ゆたかに水俣』について、水銀に関する水俣条約に向けた取組等の新たな社会情勢を踏まえ、掲載内容を改めて整理・検証し、改訂に向けて取り組む。

#### 6【点検評価委員の意見】(外部評価)

点検評価委員

維持

改善

見直し

休止

終了

水俣市の環境教育の取組は、とても充実しており、今後もさらに自信をもって進めてもらいたい。「水俣市ふるさと学習資料集」「心ゆたかに水俣」はよく編纂されており、活用できている。環境センターでは、学校に対する図書の出しも行っており、積極的に連携してほしい。

#### 7【総評】(教育委員会の最終評価)

学校版環境ISOは、各学校で取り組まれているが、マンネリ化や担当職員任せになっているように思われる。今後も、学校全体で取り組めるものとか学校の独自性のある具体策を考えていく必要がある。また、シンプル化するなど担当教諭の負担を減らすことも大切だと思う。環境教育の目指すべきところは、環境保護等に関する知識の習得、意識の醸成に終わらず、最終的には他者の尊重と自己の融和、社会生活の維持のための知識と意識の獲得に向かってほしい。

平成30年度 教育委員会重要政策事業実施状況評価表 (教育総務課学校給食センター)

政策事業名	05	給食センターにおける食育・地産地消推進事業
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業 2 教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1 【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	食育の推進として、食に関する指導やアレルギー対応食を実施し、また、食育の拠点となるようセンターの視察研修、試食会、センターまつり等を実施する。 地場産食材を使用した給食「芦北・水俣メニュー」、熊本郷土料理を取り入れた「ふるさとくまさんデー」を実施し、生産者と連携した地産地消を推進する。
事業の目的・目標	学校・地域・家庭と連携して、学校給食を生きた教材として食育を推進する。 また、生産者の顔が見える地場産食材を給食に使用し、旬の食材を使った芦北・水俣メニューを実施するなど、地産地消を推進する。

2 【投入経費】

(千円)

年 度	前年度	H30年度	備考
事業費	85,650	87,504	
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他	66	66
	一般財源	85,584	87,438

3 【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績(回数等)
食に関する指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○栄養教諭及び栄養職員による小中学生に向けた食に関する指導(47回)</li> <li>○園児、児童生徒、保護者等とのふれあい給食懇話会の実施(37回)</li> <li>○給食センター見学受け入れ(13回)</li> <li>○児童生徒と給食センター職員との交流給食(32回)</li> </ul>
給食センターまつり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第7回センターまつりを7月30日実施。来場者163人(子ども102人、大人61人)</li> <li>・給食食材を納入している地元生産者の講話。(天の製茶園の天野浩さん)</li> <li>・調理現場を開放したクイズラリー</li> <li>・くまモンタイム</li> <li>・移動絵本館「みなよむ号」との連携</li> </ul>
アレルギー対応食の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての児童生徒が給食時間を安全に、かつ、楽しんで過ごせるよう、食物アレルギーを持つ児童生徒及び職員30人に対して、細心の注意を払い、安全性を最優先しながら除去食や代替食を提供した。</li> </ul>
地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地場産食材納入品目37品</li> <li>○地場産食材を使用した毎月9日の「水俣・芦北メニュー」、県内郷土料理を紹介する毎月19日の「ふるさとくまさんデー」を実施するとともに、使われた地場産食材とその生産者を給食だよりで紹介し、生産者のモチベーションアップを図った。</li> </ul>

4 【事業の成果】

事業の達成度と、その理由

食育の推進においては、通年実施している児童生徒への食に関する指導、給食を食べることを通したふれあい給食懇話会、更にセンターまつり等を通じ食育の拠点として一定の役割を果たすことができた。

一方、地産地消の推進においては、新たな生産者及び納入物の掘り起こしにはつながらなかった。

(自己評価)

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの
- C 早急の見直しが必要なもの
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの

自己評価

B

5 【事業の課題・今後の方向性】

(1) 課題

○授業を活用した児童生徒への食に関する指導は、栄養教諭の時間的制約もあり、指導件数を増やすことには限界がある。

○地場産食材を活用するにあたって、その安全性を担保する仕組みが整備されていない。

(2) 今後の方向性

維持

改善

見直し

休止

終了

○栄養教諭に負荷のかからない指導（授業）方法を学校とともに検討する。

○安全性を確認できるチェックリスト等の作成を検討する。

6 【点検評価委員の意見】（外部評価）

点検評価委員

維持

改善

見直し

休止

終了

少ない人員での事業は大変だと思われるが、とりわけアレルギー対応食は生命にかかわる可能性もあり、難しいことをよくやれていると思う。地場食材や無農薬（に近い）食材をよく利用できている。今後も地元食材の提供者を増やすように努力してほしい。給食センターと学校・地域との連携をとろうとしている点も評価できる。

7 【総評】（教育委員会の最終評価）

食育は将来の健康な生活に大きな意味を持っているので、各学校へ満遍なく計画的に食育に関する活動の調整をしていく必要があると思う。また、学校の教師へ「給食」の意義をしっかりと伝えることも必要ではないかと考える。

平成30年度 教育委員会重要政策事業実施状況評価表 (生涯学習課 社会教育推進係)

政策事業名	06	人権教育推進事業
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業 2教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	地域住民の人権問題に対する理解と認識を深め、あらゆる差別の解消を目指すための事業を実施する。
事業の目的・目標	幅広い年齢層を対象とした参加体験型学習、現地学習等を実施し、参加者の身近な人権への気づきを促し、偏見や差別の解消への行動の芽生えを目指す。

2【投入経費】

(千円)

年 度	前年度	H30年度	備考
事業費	2,407	4,299	
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金	840	840
	地方債		
	その他	5	5
	一般財源	1,562	3,454

3【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績(回数等)
ヒューマンライツ・セミナーの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生コース：全5回(8、12月)、参加者9名</li> <li>南阿蘇村との交流学習、菊池恵楓園訪問、水俣病現地学習等</li> <li>一般コース：全3回(8、2、3月)、参加者(合計)18名</li> <li>菊池恵楓園訪問、参加体験型学習等</li> </ul>
事業所向け出前講座の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所を訪問し、出前講座の紹介</li> <li>出前講座の実施：1件(協立クリニック)参加者26名</li> <li>ハラメントに関する講話を実施</li> </ul>
第47回熊本県人権教育研究大会 水俣・芦北大会の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年10月20日、21日開催</li> <li>全体会：芦北町民総合センター(しろやまスカイドーム)</li> <li>分科会：水俣市6会場、芦北町9会場、津奈木町3会場</li> <li>1. 参加者：(1日目)1,728名(うち管内818名)</li> <li>(2日目)1,611名(うち管内591名)</li> </ul>
新規採用職員研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年4月2日実施、参加者12名</li> <li>参加体験型学習で窓口対応を想定した問題などを話し合う</li> </ul>



#### 4 【事業の成果】

<p>事業の達成度と、その理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒューマンライツ・セミナー中学生コースについては、平成30年度は全中学校からの参加があり、同和問題、ハンセン病、水俣病と3つの人権問題について、現地学習や南阿蘇村との交流学习を通じて学習することができ、最後の発表会でも、人権を自分自身の問題として考えられるようになってきた。</li> <li>・一般コースや出前講座については、参加者は少人数だが、事後アンケートなどは「勉強になった」や「普段の生活でも意識したい」など好評であった。</li> <li>・平成30年度は熊本県人権教育研究大会（県人教）が水俣・芦北地区で9年ぶりに開催され、多くの参加者があった。一般市民も人権について考えるよい機会になった。</li> </ul>	
<p>(自己評価)</p> <p>A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの</p> <p>B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの</p> <p>C 早急の見直しが必要なもの</p> <p>D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの</p>	<p>自己評価</p> <p style="font-size: 2em;">B</p>

#### 5 【事業の課題・今後の方向性】

(1) 課題					
<p>・平成30年度は県人教大会など大きな大会があり、多くの人権問題に触れるよい機会になったと思うが、継続的に人権意識を構築するような働きかけが必要である。</p>					
(2) 今後の方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナー等に参加した方々の感想等を発表（報告）するような場を検討したい。</li> <li>・事業所や各種団体に向けた出前講座の実施について、積極的にPRしていきたい。</li> </ul>					

#### 6 【点検評価委員の意見】（外部評価）

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>ヒューマンライツセミナーは、中学生は各学校からの参加者があり、各学校の文化祭等での発表で成果を還元でき、良かったと思う。一般コースについては、各区からの参加者を出していただくなど手立てがあればいいと思う。事業所訪問、出前講座は毎年継続し、実績をあげてもらいたい。新規採用職員研修は初めに実施はいいと思う。難しいと思うが、医療センター職員も参加できたらもっと良い。</p>					

#### 7 【総評】（教育委員会の最終評価）

<p>ヒューマンライツセミナーの内容は素晴らしいが、生徒が参加しやすいように体制や内容を再検討してほしい。また、セミナーも14回目となり、最初の参加者も29歳くらいになるが、受講後、何かしらの意味があったかの検証ができれば良いと思う。人権教育の推進については、計画的に継続的に行う必要があるため、事業所に向けた出前講座等の活動を今後も地道に継続して行ってほしい。</p>
---

政策事業名	07	文化会館自主文化事業
種別	1 水俣市総合計画に掲載された事業	2 教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業

1 【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	文化会館における公演の実施 芸術劇場…児童・生徒対象。小学生向けと中学生向けを隔年で開催する。 一般公演…様々な舞台芸術の中から、ジャンルに偏りがないように選定、1～2本の上演を行う。
事業の目的・目標	生の優れた舞台芸術等を鑑賞する機会を低料金で提供し、市民の教養を高め、文化向上を図る。 また、単なる一方的な鑑賞にとどまらず、プロに学んだりジョイントコンサートを行ったりするなど、住民参加型の催しも積極的に取り入れていく。

2 【投入経費】

(千円)

年 度	前年度	H30年度	備考	
事業費	4,339	5,736		
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他	3,073	3,046	・文化会館入場料 ・補助金
	一般財源	1,266	2,690	

3 【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績 (回数等)
重要無形文化財 「組踊」特別鑑賞会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年9月8日(土)開催</li> <li>・会 場：水俣市文化会館</li> <li>・入場料：無料</li> <li>・入場整理券配布率：95.0%</li> <li>・入場者総数：614人(入場率64.6%)</li> <li>・21年ぶりに水俣開催</li> </ul>
「秋川雅史ジョイントコンサート」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年12月8日(土)開催</li> <li>・会 場：水俣市文化会館</li> <li>・入場料：前売り券2,000円(当日2,500円)</li> <li>・入場券販売率：82.38%</li> <li>・入場者総数：701人(入場率97.4%)</li> <li>・販売率、入場率ともに想定の80%を上回った。</li> </ul>
小学校芸術劇場 「大どろぼうホッツェンプロッツ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年12月18日(火)開催</li> <li>・会 場：水俣市文化会館</li> <li>・鑑賞対象者：市内小学校全児童</li> <li>・一部負担金：400円/人</li> <li>・鑑賞児童総数：1,169人</li> </ul>

#### 4【事業の成果】

事業の達成度と、その理由

生の優れた舞台芸術等を鑑賞する機会を低料金で提供できた。  
理由としては、文化庁の補助対象事業と市町村振興事業補助金を活用することで、歳入を補填することで、市の負担を軽減できたため。

(自己評価)

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの
- C 早急の見直しが必要なもの
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの

自己評価

B

#### 5【事業の課題・今後の方向性】

(1) 課題

学校芸術劇場の演目選定について、次世代を担う子どもたちに対して、会館へ足を運び、文化芸術に触れることの楽しさを感じてもらえるよう、また、豊かな心や感性を刺激し育てていくようなものを心掛ける必要がある。

一般公演については、集客率や知名度等で公演を選定してしまうと、ジャンルに偏りや公演委託料が高くなるなどの弊害があるが、限られた予算の中で事業効果を高めるために、助成や補助金の活用や、効果的な広報活動など工夫し、多くの市民へ幅広いジャンル・質の高い文化芸術を提供する必要がある。

(2) 今後の方向性

維持

改善

見直し

休止

終了

次世代を担う子どもたちに対しても、豊かな心や感性を刺激し育てていくような演目の選定、鑑賞の機会を提供し続けていく。

市民の関心が高いジャンルや時流に応じた演目を選定することで市民の教養を高め、文化の向上を図っていく。また、助成や補助金に対して積極的に活用を行い、広報活動を効果的に行うことで集客率を高めより多くの市民が気軽に文化芸術を鑑賞できるように取り組む。

#### 6【点検評価委員の意見】(外部評価)

点検評価委員

維持

改善

見直し

休止

終了

可能な範囲で、国・県の補助事業を積極的に取り入れてほしい。芸術劇場を小学校、中学校と隔年で実施したら、中学生は、1回または2回体験する場面が出てきて、不公平ではないだろうか。せめて中学生にも2回は実施するためには、小中とも実施の年が、3年に1回は必要なのではないだろうか。小学校、中学校との9ヶ年のなかでジャンル別に、伝統芸能(能、狂言、落語等)、演劇、音楽等で、ある程度順を決めたらどうであろうか。

#### 7【総評】(教育委員会の最終評価)

幅広い情報を基に計画的な運用を今後も図ってほしい。また地域の文化向上のためには、住民参加型の催しも取り入れていくことや住民のニーズを把握しながら企画してほしい。入場者数は多いに越したことは無いが、市民の興味関心、行動については日常の生活意識が出るものなので、市政全体の結果として少しずつ高めていく必要があると感じる。広報活動については、もっと視覚に訴える工夫を行ってほしい。

平成30年度 教育委員会重要政策事業実施状況評価表 (生涯学習課 図書館)

政策事業名	08	図書館創作活動事業
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業 2 教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1 【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	1 創作童話ワークショップの開催 2 子ども創作童話大賞の開催 3 絵本の読み方ワークショップの開催
事業の目的・目標	創作童話ワークショップ等の事業を通じて、市民が豊かな想像力や表現力の技術を身に付け向上させるために実施する。

2 【投入経費】

(千円)

年 度	前年度	H30年度	備考
事業費		798	
財源内訳	国庫支出金	0	
	県支出金	0	
	地方債	0	
	その他	0	
	一般財源		798

図書館創作活動事業は、平成30年度から実施

3 【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績(回数等)
創作童話ワークショップ	開催日：7月下旬 ①26日午前 ②26日午後 ③27日 ④28日 場 所：水俣環境アカデミア①②③ 市公民館④ 参加数：計63人 講 師：本木 洋子(児童文学作家)
子ども創作童話大賞	募集期間 平成30年9月20日(木)～11月20日(火) 応募資格 市内在住の小学生及び中学生 応募作品数 詩の部 79作品 創作童話の部 18作品 表彰式 日 時：平成31年3月2日(土)15時30分～ 場 所：市公民館第1研修室 審査員 本木 洋子氏(児童文学作家)
絵本の読み方ワークショップ	開催日：平成31年2月9日(土) 午前と午後の2回開催 場 所：午前/白梅清香保育園 午後/水俣アカデミア 参加数：計62人 講 師：村中 李衣氏(ノートルダム清心女子大学児童学科教授(岡山県))

4 【事業の成果】

事業の達成度と、その理由	
<p>創作童話ワークショップは、計63人の参加者が詩や創作童話作りに挑戦、また、子ども創作童話大賞では、市内在住の小学生及び中学生を対象に、詩と創作童話併せて97作品の応募があるなど、事業を通じて、市民が豊かな想像力や表現力の技術を身に付け向上させることができた。</p>	
<p>(自己評価)</p> <p>A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの</p> <p>B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの</p> <p>C 早急の見直しが必要なもの</p> <p>D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの</p>	<p>自己評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>

5 【事業の課題・今後の方向性】

(1) 課題					
<ul style="list-style-type: none"> <li>各事業とも、参加者増になるよう開催の周知に努めていきたい。</li> <li>創作童話ワークショップに参加した一般の方から作品を発表する場がほしいとの要望を受けている。</li> </ul>					
(2) 今後の方向性	<input checked="" type="radio"/> 維持	<input type="radio"/> 改善	<input type="radio"/> 見直し	<input type="radio"/> 休止	<input type="radio"/> 終了
<p>創作童話ワークショップ等3つの事業については、来年度以降も引き続き実施していきたい。また、子ども創作童話大賞は、次年度から対象者に高校生、一般市民も加え、名称を市民創作童話大賞に変えて、実施していきたい。</p>					

6 【点検評価委員の意見】(外部評価)

点検評価委員	<input checked="" type="radio"/> 維持	<input type="radio"/> 改善	<input type="radio"/> 見直し	<input type="radio"/> 休止	<input type="radio"/> 終了
<p>創作童話ワークショップと子ども創作童話大賞は深く関係しており、前者に参加した人はぜひ後者で自分の作品を作り、本を好きになってもらいたい。子ども創作童話大賞については、大賞作品を市報等で紹介すると盛り上がると思う。子ども創作童話大賞の今後の方向性で高校生、一般市民を含むと提起されているが、総論は賛成だが、どの程度の参加があるか心配である。</p>					

7 【総評】(教育委員会の最終評価)

<p>提出作品については入賞作品だけでなく、すべての作品を学校、公共施設に展示することで視覚的に触れる機会を設けてほしい。読書や創作の技術論にとどまらず、市民の意識、生活感、価値観、幸福感に関わることで、結果が見られにくいものなので、継続するには難しいものがあると思うが、ぜひ継続し発展させていただきたい。</p>
---

政策事業名	09	公民館自主事業
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業 2 教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

## 1 【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	市民に多種多様な学習機会を提供するとともに、市民の生涯学習活動の活性化を図るため、市公民館において各種公民館自主事業を開催する。
事業の目的・目標	公民館自主事業（市民教室、いきいき教室、子ども教室、生涯学習フェスティバル）を実施して広く市民に学ぶ機会を提供し、人生が豊かで実りあるものになるよう支援する。

## 2 【投入経費】

(千円)

年 度		前年度	H30年度	備考
事業費		2,088	2,019	
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他	715	783	
	一般財源	1,373	1,236	

## 3 【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績（回数等）
市民教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民教室：19教室（料理、フラダンス、朗読、いけ花、パソコン、クラフト手芸、スポーツ吹矢、ハーモニカ、書道、3B体操、くらしに役立つデッサン、健康太極拳、セットダンス等）</li> <li>期間：平成30年6月～31年2月（一部3月まで）</li> <li>受講者数：延べ3,540人</li> </ul>
いきいき教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼロから分かるスマートフォン活用講座 平成30年9月8日開催 参加者26名</li> <li>明治改元150年シリーズ①～水俣と明治維新・そのとき水俣は～ 平成30年10月19日開催 参加者33名</li> <li>明治改元150年シリーズ②～水俣と太平洋戦争・そのとき水俣は～ 平成30年12月7日開催 参加者25名</li> </ul>
子ども教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休み子ども教室 日 程：平成30年8月8日開催 会 場：水俣市公民館本館2階ホール テーマ：お天気教室～お天気のひみつを学ぼう～ 参加者：水俣第一小学校、袋小学校児童等 計125名</li> </ul>
生涯学習フェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> <li>日程：平成31年3月9日（土）、10日（日）開催</li> <li>会場：水俣市公民館本館</li> <li>展示部門：クラフト手芸、いけ花、書道、はがき絵、デッサン等</li> <li>ステージ部門：ハーモニカ、朗読、吹矢、フラダンス、太極拳等</li> <li>2日間の参加者、来館者等、延べ1,161人</li> </ul>

4 【事業の成果】

事業の達成度とその理由

- ・市民教室は、19教室開講し市民教室の期間を通じ受講者数は延べ3,540人と前年度（延べ3,037人）を上回り、前年度と比べより多くの市民に学習の機会を提供できた。なお、本年度は「市民教室」の周知も兼ねて、受講者の二次募集を行なったことも増員の要因のひとつである。
- ・子ども教室は、参加者125名と昨年度（78名）と比べると、大幅に増加した。
- ・生涯学習フェスティバルは、25回目の開催で（土）（日）の2日間で延べの1,161人と、例年延べ1,200人程度で推移しており、公民館活動の情報発信の場であると共に、「市民教室」の受講者にとっては、「市民教室」の成果の発表の場でもあり受講者のやる気の向上も図られた。

（自己評価）

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの
- C 早急の見直しが必要なもの
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの

自己評価

B

5 【事業の課題・今後の方向性】

（1）課題

・市民教室においては、受講者は増加したが、市民教室の開講日や時間帯が平日の昼間に集中していることから、平日の昼間に働いている市民が受講できない。また、受講者は60歳以上の女性が多く、男性や若者が少ない。

（2）今後の方向性

維持

改善

見直し

休止

終了

・市民教室の開講日や時間帯が平日の昼間に集中していることから、市民教室の講師と土、日曜日に開催できないか協議すると共に、新たに土・日曜日に開催できる市民教室を模索する。また、男性や若者にも興味がある市民教室を模索する。

6 【点検評価委員の意見】（外部評価）

点検評価委員

維持

改善

見直し

休止

終了

市民講座の受講者数は延べ3,540人と増加傾向であるとのことで、大変すばらしい。また、成果発表の場でもある生涯学習フェスティバルも実施されており良いことである。いきいき教室や子ども教室も参加者が多く、中身も工夫されており、テーマも身近で参加しやすい点が評価できる。

7 【総評】（教育委員会の最終評価）

様々な講座を設ける、土日にも開講するなど多くの市民が参加できるよう工夫してほしい。男性の受講者数が少ない点については、男性は多人数で会話しながら楽しむことに不慣れな人も多いのかと感じる面もあり、サークル活動自体に抵抗があるかもしれません。種目だけの問題ではなく講座のスタイルも関係するのかもしれません。

政策事業名	10	生涯スポーツ活動及び競技スポーツ活動の推進
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業 2教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校運動部活動の社会体育移行</li> <li>・市民手づくりによるスポーツ大会の開催「スポーツ水俣実行委員会の設立」</li> <li>・キッズサポーター関連事業の推進</li> <li>・スポーツ環境の整備</li> </ul>
事業の目的・目標	市民ニーズにあったスポーツ大会等の企画・運営により、子どもから高齢者（障がいをもつ人を含む）まで、誰もが生涯を通じて気軽に参加できる生涯スポーツの推進と競技スポーツの振興に取り組む。

2【投入経費】

(千円)

年 度	前年度	H30年度	備考
事業費	42,049	45,034	
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他	3,158	17,066
	一般財源	38,891	27,968

3【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績(回数等)
小学校運動部活動の社会体育移行に伴う、水俣っ子クラブ立ち上げ	小学校運動部活動の社会体育移行の最終年度とし、水俣っ子クラブ運営協議会を立ち上げ、計4回の協議を実施し、適切な児童にとってのスポーツ環境確保のため、専属のコーディネーターが学校での説明等を行い、スムーズな社会体育移行へつながった。
水俣市民駅伝競走大会実行委員会の立ち上げ	市民の意見を反映した、スポーツ大会とするため、これまで実行委員会がなかった市民駅伝競走大会に実行委員会を立ち上げ、大会要項等の策定を行った。
キッズサポーター基金の立ち上げ 水俣市スポーツキッズサポーター事業として、「野球クリニック」、「トークショー」開催	スポーツを通じた子どもたちの健全な育成を応援するため、企業及び団体、個人からの寄付金等を積立てる、「水俣市スポーツキッズサポーター基金」を立ち上げた。 多くの企業等から賛同を得て、目標額以上の寄付金等があった。 事業としては、平成31年度から実施予定である。 子供たちが、トップアスリートと触れ合う機会とし、スポーツを通じた子どもたちの人材育成を図ることを目的とし、熊本県スポーツ振興事業団・ミズノグループの協力を得て、平成30年11月17日に野球クリニックをエコパーク水俣潮騒の広場にて、トークショーを県環境シアターにて実施し、市内の中学生を中心に多くの参加者があった。
総合体育館幕板工事及び小アリーナ照明LED化工事	総合体育館幕板工事(4ヵ年工事)の最終年度として、北側幕板取替工事を実施し施設長寿命化を図れた。 また、総合体育館小アリーナの照明をLED化工事も実施し、利用者の利便性の確保及び将来的なコスト削減に繋がったものである。



#### 4 【事業の成果】

<p>事業の達成度と、その理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校運動部活動の社会体育移行も予定どおり終了することができた。</li> <li>・市民駅伝競走大会に実行委員会を立ち上げたこと、スポーツ3大イベント（競り舟大会、市民体育祭、市民駅伝）すべてを市民の意見を反映できる大会となった。</li> <li>・キッズサポーター基金の立ち上げにより、スポーツを通じた子どもたちの健全育成に繋がることが見込まれる。</li> <li>・目標の工事等は実施できた。</li> </ul>	
<p>(自己評価)</p> <p>A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの</p> <p>B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの</p> <p>C 早急の見直しが必要なもの</p> <p>D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの</p>	<p>自己評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>

#### 5 【事業の課題・今後の方向性】

(1) 課題					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校運動部活動の社会体育移行の完全な定着には時間がかかるものと思われる。</li> <li>・スポーツ（3大イベント）は、継続して市民の意見を取り入れた大会としたい。</li> <li>・キッズサポーター基金運用のために、継続した寄附等の必要がある。</li> <li>・突発的な施設整備等もあり、財政面でも長寿命化計画の策定は必要不可欠である。</li> </ul>					
(2) 今後の方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校運動部活動の社会体育移行後のスムーズな活動についてサポート及び助言を行う。</li> <li>・市民の意見を取り入れた大会になるよう、今後も実行委員会にてイベント実施を行う。</li> <li>・キッズサポーター基金を、子どもたちの健全育成に有効に活用し、寄附者との交流も図る。</li> <li>・計画的な施設整備等を行うため、長寿命化計画の策定を行う。</li> </ul>					

#### 6 【点検評価委員の意見】（外部評価）

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>スポーツを通じた人材育成という観点が多く感じた。キッズサポーター基金の立ち上げが子どもたちの健全育成につながるように、よく運営してほしい。また、最初の立ち上げは寄付金でいいと思うが、今後は予算化が望ましいと思われる。課題であった小学校運動部活動の社会体育移行ができたのは高く評価できる。体罰や事故の防止等、指導面、経営面の不祥事防止に努めてほしい。スポーツ3大イベントの実行委員会の立ち上げが3つともできたことで、市民の意見を反映することができ、うまく運営できていると思える。</p>					

#### 7 【総評】（教育委員会の最終評価）

<p>小学校運動部活動の社会体育移行は概ね円滑に進んだと思うが、様々な意見は水面下にあると思うので、ぜひ積極的に吸い上げをお願いしたい。子どもから大人まで気軽に参加できる事業、多くの市民が継続的に参加できる事業を今後もお願いしたい。また、運動に苦手意識を持つ子どもなどすべての子どもに対してもサポートするような事業も企画してほしい。施設の長寿命化については長い視野での計画を整えつつあるということで、評価できると思う。</p>
---